

令和6年度 学校評価書

学校法人大阪滋慶学園 滋慶学園高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

＜滋慶学園高等学校のスクールポリシー＞

(1) グラデュエーション・ポリシー(育てたい生徒像)

○生涯を通じて自ら学び、自ら考える力を身につけることができる生徒 ○礼節を重んじ、思いやりの気持ちが持てる心豊かな生徒 ○自主的・自律的に行動でき、地域・社会に貢献できる生徒 ○国際的視野を身につけ、多様な文化を理解し、将来グローバルに活躍できる生徒

(2) カリキュラム・ポリシー(学びの内容・方法)

○通信制の特色を生かした、自分のペースで学べるカリキュラムの編成及び実施 ○多様なニーズに対応した、一人ひとりの個性が生かせるコース・専攻の設定 ○一人ひとりを大切にする、きめ細かく丁寧な面接指導・添削指導・進路指導

○社会性や課題発見・解決能力を身につけるための、体験・探究学習 ○全国の滋慶学園グループネットワークを生かした、多彩なキャリア教育

(3) アドミッション・ポリシー(求める生徒像)

○志や目標に向かって努力できる生徒 ○チャレンジ精神に富み、自らの限界に挑戦できる生徒 ○相手の立場に立って物事が考えられる心豊かな生徒

項目	添削指導、面接指導、多様なメディアを利用した学習を取り入れた指導、試験及び生徒の履修状況の把握・確認その他生徒の成績評価や	具体的な方策	中間評価	中間進捗状況	年度末評価	年度末達成状況及び次年度への改善方策
育てたい生徒像	自ら学び、自ら考える力を身につけ、生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけた生徒を育成する	・総合的な探究の時間の改善 ・チャレンジ講座の改善 ・ICTを活用した魅力ある授業の展開	B	各キャンパスとも地域の特性を生かした総合的な探究の時間を展開している。 美作キャンパスでは、西粟倉村でフィールドワークを行い、芝桜の植栽活動を通じて地域の魅力化について自ら考える機会を設けた。	B	各キャンパスとも地域の特性を生かした総合的な探究の時間を展開した。 次年度は、総合的な探究の時間やチャレンジ講座において身につけた資質・能力を明確にしつつ、体験を重視し、探究力を高める活動を計画していきたい。
	礼節を重んじ、思いやりの気持ちを持った心豊かな生徒を育成する。	・滋慶学園標語「今日も笑顔であいさつを」の徹底 ・コミュニケーション講座の開催 ・毎朝のあいさつ運動の実施	B	校内数カ所に掲示してある「今日も笑顔であいさつを」の標語について全校集会や各クラスのHRにおいて呼びかけを行った。 毎朝、あいさつ運動を実施することにより、生徒から元気なあいさつが聞かれるようになった。	B	挨拶ができる生徒が多くなった。次年度は、自発的に挨拶ができるよう、挨拶運動を充実させたい。 美作キャンパスで川崎医療福祉大学の心理学博士によるストレスマネジメント講座を行うなど、対人関係における力の向上を図った。次年度以降さらに充実させたい。
	自主的・自律的に行動でき、地域・社会に貢献する生徒を育成する。	・地域貢献活動「クリーン作戦」等への参加 ・地域の文化行事への参加	A	美作キャンパスでは美作市の「クリーン作戦」に参加し清掃活動を行った。東京キャンパスでは地域の子ども食堂のスタッフとしてボランティア活動を行った。	A	地域の各種行事に参加し、地域の方から評価を受けることにより、地域貢献の重要性を認識するとともに自己有用感の醸成に繋がった。 次年度については、さらに地域貢献活動を充実させていきたい。
学習環境	通信制・単位制の特色を生かし、多彩な専攻・コースを用意し、生徒自身のペースで学習できる環境を整える。	・専攻・コースの学習内容の改善 ・剣道専攻生徒の対外活動の推進 ・学校設定科目の検討	A	通学5日・1日、通信コースといった自分のスタイルにあった学び方ができるコースの他、スポーツ(剣道)に特化した剣道専攻や、専門学校高等課程と連携したコースなど、多彩なコースの運営を行っている。	A	自分の学習スタイルに合ったコース・専攻に所属することにより、生徒は活き活きと学習に取り組んでいる。多様化する生徒のニーズに対応するため、来年度に向けて、探究活動の基礎を身につけることを目的とした学校設定科目の新設を申請予定である。
	多様なニーズに対応するカリキュラムやスクーリングを設定し、生徒の単位修得をしっかりとサポートする。	・個に応じたスクーリング時間割の作成 ・課題を抱える生徒に対してのきめ細かい指導	B	Microsoft365 Teamsを活用したオンライン添削やZOOMによる遠隔地生徒のサポートを行った。 ICT教育委員会を開催し、オンライン教育の充実化に向けて取り組んだ。 特別支援コーディネーターと連携し、支援が必要な生徒に対して配慮したスクーリング計画を作成した。	B	生徒の実態に合わせたカリキュラムやスクーリングを実施し、生徒の単位修得に向けて全教職員で取り組み、ほとんどの生徒が単位修得することができた。 特別支援教育コーディネーターと連携し、来年度の支援体制の充実について検討していきたい。
	生徒の進路希望の実現に向けて、きめ細かくサポートする。	・進路の手引きの活用 ・企業ガイダンスへの参加 ・職業体験セミナーへの参加	A	「進路の手引き」を活用し、進路ガイダンス等を通して、進学や就職に関する手続きを生徒・保護者に分かりやすく示すことができた。 職業体験セミナーや企業ガイダンスに参加し、進路選択のための情報を得させることができた。	A	令和6年度卒業生の進路決定率は88.6%(R5は86.8%)であった。文部科学省令和5年度学校基本調査によれば、全国の通信制高校の進路決定率は71.8%であり、本校の進路指導は全国平均をはるかに上回る水準にある。きめ細かい指導の成果と分析している。
広報活動	広報活動を積極的かつ計画的に推進する。	・オープンスクールの実施 ・入試対策セミナーの実施 ・中学2年生対象イベントの実施 ・SNSやブログ等による情報発信	B	教科の内容に関する体験や専門学校の教員による体験実習を含むオープンスクールを実施し、参加した中学生や保護者に本校の魅力を理解していただいた。 Xやインスタグラムによる情報発信を頻繁に行った。	B	オープンスクール参加者等の来校者数は昨年度より増加し、入学者数も増加した。 Xやインスタグラムによる情報発信数も昨年度より増加した。 本校の魅力を最大に発信する広報活動について今後検討していきたい。
	地域に根差した広報活動を実践する。	・小学生対象ロボット工作教室の実施 ・中学生対象プログラミング教室の実施 ・中学生対象オンライン授業の実施 ・地域対象イベントの実施 ・美作市広報紙における本校紹介	B	学校認知に向け、小学生を対象としたロボット工作教室や、中学生を対象としたプログラミング入門セミナーを実施した。 地元行政の広報誌に隔月で学校の取組を掲載していただいている。 中学校の不登校生対象の授業動画を作成し配信する準備を進めている。 地域のケーブルテレビや新聞社に、学校行事・イベントの取材・発信を依頼している。	A	美作市の広報誌に隔月で学校の取り組み紹介を掲載してもらったり、地元のケーブルテレビで本校の取り組みが数多く放送されるなどして、地域の方の本校の認知度は向上した。地域で読者の多い雑誌への広告掲載も行った。 また隣接の美作市スポーツ医療看護専門学校と連携し、地域の住民対象に医療・防災フェスを実施した。来年度は、地域に出かけて行っの活動を更に充実させ、地域に根ざした学校となるよう取り組んでいきたい。
安全・安心な学校	交通ルールの遵守と生活マナーの向上を図る。	・交通安全教室の開催 ・非行防止教室の開催	B	地元警察署の協力を得て交通安全講習会や非行防止教室を開催し、交通安全や安全に生活を送る方法について学んだ。	A	地元警察署に講師を依頼して交通安全講習会や非行防止教室を開催し、交通安全や生活安全について学ぶことができた。 今年度は、大きな交通事故やトラブルもなく終わることができた。来年度においても継続させていきたい。
	健康・安全・防災教育を推進する。	・防災避難訓練 ・食育講座の実施	B	食育講座を地域の栄養委員、愛育委員の協力のもと実施し、健康管理意識の高揚を図ることを計画している。 防災訓練を、地域の消防署と連携して実施することを計画している。	A	食育講座を実施し、食育や健康管理について学ぶことができた。美作キャンパスで地震車による地震体験を行うなど、防災・防火訓練を地元消防署と連携して実施し、防災について身をもって学び、防災意識を高めることができた。
	安全・安心で快適に学習できる環境づくりを推進する。	・校舎・施設設備・環境の安全点検の実施 ・危機管理マニュアルの改訂 ・学校安全計画の作成 ・学校薬剤師による校内環境測定	A	月1回、管理業者による施設設備点検の実施を計画している。職員による校内安全点検、学校薬剤師による光環境測定やCO2濃度測定の実施を計画している。専門業者による害虫点検、消防設備点検、電気設備点検、水質点検の実施を計画している。危機管理マニュアルを全教職員で共有した。	A	月1回、管理業者による施設設備の点検を実施した。職員による校内安全点検、学校薬剤師による光環境測定やCO2濃度測定を実施した。専門業者による害虫点検、消防設備点検、電気設備点検、水質点検を実施した。危機管理マニュアルについて、リスクとなる事象の追加の検討など、さらなる充実を図りたい。

